

## 『学ぶ』から『伝える』へ

大分農業文化公園長 渡邊 淳二

大分農業文化公園で水稻栽培 6 年、シチトウイ栽培 3 年と夢米（ゆめ）棚田プロジェクトも定着し、初めて田植えをする学生に先輩学生が手取り足取り教える様子は非常に好感がもて、ふと私も学生時代を思い出したところでした。

今回、皆様方の活動に二つの取り組みを加えていただきました。一つはシチトウイの植え付けや収穫に、地元の小学生に参加していただき、別府大学生の活動を直接見ていただくとともに、学生には小学生の先生となってシチトウイのことを教えていただきました。

もう一つは、農業文化公園で 11 月に開催した「米フェス」に学生、先生に参加していただき、活動パネルの展示や世界農業遺産についてのアンケート調査などを行っていただきました。

アンケートの中で「大分農業文化公園で別府大学生が農業体験を行っているのを知っていますか？」という設問に対し 33%の方が知っていると答えていただきましたが、この結果は年齢による差が大きく、60 歳代以上では 58%と半数以上の方が知っていると答えていただきましたが、30 歳代以下の方では 12%という結果でした。

今回、皆様方のプロジェクト活動に参加させていただいて、このプロジェクトは皆様方が稲作やシチトウイの栽培や加工を通じて農業・農村を「学ぶ」という役割に加え、この素晴らしい活動をもっと多くの人に知ってもらい、そして、皆様方が先生となって次代の子供たちにつなげていく「伝える」という役割もあると感じたところです。

来年に向け、これまでの「学ぶ」とともに、多くの人、子供たちに「伝える」取り組みを検討していただければ、農業文化公園も一緒になって、その場づくりを行いたいと考えています。この活動のさらなるステップアップを期待しています。